

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

心臓リハビリ外来に関する研究

2. 研究の対象患者

2012年4月1日から2017年1月16日までの期間に、当院の心臓リハビリテーション外来に参加された方

3. 研究の対象期間

2012年4月1日～2017年1月16日

4. 研究の概要

心臓リハビリテーション（以下心リハ）における運動療法は心リハの中心的な役割を担っており、様々な身体効果が証明されている。その主たる効果は運動耐容能の増加であり、これに伴い労作時呼吸困難や疲労感などの心不全症状や狭心症発作など、日常生活同一労作における諸症状を軽減してQOLや長期予後を改善するとしている。しかし、急性期病院の場合、入院期間の短縮で入院中に運動療法が行われないことも多く、患者のQOLの低下や予後に対するマイナス面は大きい。したがって外来での回復期心リハ（以下心リハ外来）は重要であるとしている。一方自宅での非監視下での運動療法を適切に行えば監視下の運動療法と同様の効果が得られるとの報告もある。本邦においては低頻度の心リハ外来の有用性を検討した報告や、心リハ外来の通院頻度と運動耐容能の改善度の関係を検討した報告はみられるが、いずれも少人数での報告であり、監視下運動療法の頻度が運動耐容能に及ぼす影響に関しては十分には検討されていない。そこで、本研究では、通院頻度の違いが運動耐容能に及ぼす影響について調査することで、適切な通院頻度を検証することを目的とする。

5. 研究実施予定期間

2017年1月18日～2019年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：識別コード、年齢、性別、通院頻度、心肺負荷試験等

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院
・研究責任者：リハビリテーション科 三浦 秀之
・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)